

特集 I 国際協同組合年、再び

02

協同組合に留まらないゆるやかなつながりを広げる
 — 協同組合ネットいばらきの取り組み

加賀美 太記 (阪南大学流通学部)



左から 鯉沼圭二氏 (JA 茨城県中央会)
 井坂寛氏 (茨城県生活協同組合連合会)
 加賀美太記

2012 年国際協同組合年をきっかけに

【加賀美】 前回の協同組合年では、全国各地で協同組合の連携の枠組みがいくつも立ち上がりました。協同組合ネットいばらきもこの時期に設立したと伺っていますが、誕生の経緯はどのようなものだったのでしょうか。

【井坂】 茨城では 2012 年以前から、茨城県協同組合間提携推進協議会という協同組合間連携の組織がありました。平成元年 7 月に、協同組合の社会的地位の向上や発展を目的に設立された提携推進協議会は、農協や生協、漁協、森林組合などが参加していました。2012 年の国際協同組合年を迎えるにあたって、2012 国際協同組合年茨城県実行委員会を立ち上げ、提携推進協議会の会員がそのまま実行委員会に入って活動を行いました。実行委員会では、協同組合の価値を県民に広く訴求する活動を展開して、これが協同組合間連携の強化のキッカケにつながりました。

【鯉沼】 実行委員会が行った活動は色々ありますが、一番の目玉となったのが二宮金次郎キャラバンです。農協の元祖と言われる二宮金次郎ゆかりの県内史跡を中心に、JA の本店や支店を二宮金次郎の格好に扮しながら歩いて巡り、協同組合を PR するという企画でした。これには延べ 1,400 人以上が参加して、県内各地を 230 キロぐらい歩いて回りました。最終日には、生協連が行っているピースアクションの会場に合流して、協同組合と平和のメッセージをアピールしました。他にも、協同組合シンポジウムや収穫祭、災害ボランティアなど、1 年間にわたって様々な取り組みを行いました。2012 年は、つくば市で竜巻の大きな被害が出たこともあり、生協や農協からたくさんの方にボランティア参加していただきました。

こういった取り組みを振り返ったとき、せっかく 1 年間やってきたこの流れを終わらせてしまう

のは、もったいないんじゃないか、という話になりました。実行委員が集まり、活動を総括したときに、もともとあった提携推進協議会を発展的に解散し、新たに協同組合ネットいばらきを作りましょう、となったのが設立の経緯です。

【井坂】 農協・漁協などは生産者の協同組合であり、生協は消費者を中心とした協同組合で、それぞれ持っている強みがあります。そうした強みを、協同組合同士がお互い近寄ることでもっと引き出し、協同組合全体が県内で発展できたらいいねというのが大元です。

ただ、組織も違えば経営も違いますから、がちりではなく、あくまでゆるく。違う組織同士がゆるくつながりながら、できるところは一緒にやりましょうという関係を、トップを含めた役職者が本音で話し合いながら、以前から作ってきたということが大きいです。とくに農協と生協のトップ同士、お互いに仲が良かったし気心が知れていた。だから一緒にやれるところには手をあげてもらって、一緒にやるということを大事にしながら続けています。これが強制的になってくると、続かないのではないかと思っています。

協同組合を超えて 広がるつながり

【加賀美】 現在、協同組合ネットいばらきに参加している団体を拝見すると（表①）、協同組合だけでなく、放送局などをはじめ、様々な団体が参加しているのは、全国的に見てもとてもユニークですね。

【鯉沼】 先程お話した通り、2012年の取り

組みについては、県民の皆様へのPRや協同組合間連携の強化には一定の効果があったと総括しました。特に、県民の皆様へのPRに関しては、協同組合の価値や理念を効果的にPRしていくためにはどうすればいいかを考えた時に、実行委員会のなかにNHK水戸放送局や茨城放送、茨城新聞というメディアの皆さんに入っていたかという風になったと聞いています。おかげさまで年間を通じて、取り組みのたびに積極的な情報発信が可能になりました。こうしたメディアの皆さんとは、もともと農協でもつながりがあったので、そこから声をかけていったのだと思います。

なお、団体ごとの役割としては、代表には茨城県生協連の会長を据えています。副代表がJA茨城県中央会と茨城沿海地区漁業協同組合連合会、茨城県森林組合連合会の会長になります。監査は茨城県酪農業協同組合連合会と茨城県畜産農業協同組合連合会の会長に担当していただいています。

メディアの3団体に関しては学識団体、委員という形で参加していただいております。活動の負担金は求めています。引き続き、広報活動の面で連携しているという形になります。

【加賀美】 事務局を担っているのは茨城県農業組合中央会なのでしょうか。

【鯉沼】 中央会が担当しています。聞いた話になりますが、当時、事務局だけでなく代表まで農協が担当してしまうと農協だけの活動になってしまうのでは、という懸念があり、代表は県生協連にお願いしたいということになったようです。この役割分担は変わらずに10年以上続いています。

【加賀美】 それにしても参加団体数がもの

すごく多いですね。なんとなくユニセフ協会は生協とのつながり何だろうなとイメージできますが、県サッカー協会は初めて見ました。

【鯉沼】 もともと推進機構に参加していたのは各組合の県域組織が中心でした。それが今の形になるときに、ネットいばらきには広く単協にも入ってもらおうということになりました。そのとき、一般会員団体が広がったという形ですね。

ちなみに県サッカー協会が加入したのは2022年と比較的最近です。これは、まず県サッカー協会がJAグループ茨城教育センターの建物に入っているというのがあります。加えて、JAいばらきスポーツパークという、人工芝の先進的なグラウンドを共同で整備していました。そうしたつながりもあって、これからさらにお互いの活動をPRしていくにあたり、県サッカー協会としても、協同組合ネットいばらきとしても、色々と協力できることがありそうなので、せっかくだから会員になってみてはどうですか、という話になりました。スポーツ振興についても協同組合は関わっていますので、そういった親和性もあるでしょうし、協同組合としてもサッカー協会を通じて若い世代とのつながりも期待できるという話でした。

そうしたこともあり、ここ10年で会員はどんどん増えています。たとえば2014年には、生活クラブ生協や鯉淵学園農業栄養専門学校が加わったり、その後も医療生協であったり、ワーカーズコープなども参加するようになっていきます。

多様な団体が参加する活動からの気づき

【加賀美】 様々な団体が参加する、ゆるやかなつながりというのが特徴のようですが、協同組合ネットいばらきとしての代表的な活動は、どのようなものがあるのでしょうか。

【鯉沼】 会員にも馴染みのある活動としては、2018年から参加している子ども応援プロジェクトがあります。こちらはフードバンク茨城と連携した、子育て世帯に対する食料支援です。具体的には、学校給食がお休みになる夏休みと冬休みの時期に、食に不安を抱える世帯に対して食料を支援する取り組みです。協同組合ネットいばらきでは、食料・寄付金・ボランティアの3つを会員団体から募集しています。団体からの返事を集約して、食料の寄付であれば回収してフードバンクに届けています。ボランティア参加の方には、当日の活動についての案内をして、寄付金についても後日集約して振り込むという形で進めています。

また、コロナ禍の影響で、大学生が飲食店等でアルバイトができなくなってしまい、だいぶ困窮しているという情報があったことから、彼らを支援できないかということで、大学生向けの食糧支援も始めました。こちらも協力いただける会員団体に食料の提供や寄付金を呼び掛け、大学生協経由で学生に配布しました。当時、食料支援を受けた学生が会員団体に就職したこともあります。学生支援は現在も継続して取り組んでおり、今年は大学生協の食堂で100円カレーのキャンペーンも行いました。

【井坂】 食料支援は継続して取り組んでき

たので、会員団体以外でも認知が広がっています。たとえば、茨城大学とコマツの共同研究事業で、機械を導入し省人化で生産するお米作りの研究がされていて、そこで取れたお米を提供してくれています。そのお米は大学生協だけでなく、地域のこども食堂等にも提供しようと県社会福祉協議会を通じて寄贈させてもらっています。そういう経験から、活動を長く続けていると、応援してくれる人たちは広がってきます。当初の設立目的であった協同組合の認知向上、社会的な貢献の役割が一層広がっているのを実感しています。

平和の取り組みでも、生協のピースアクション実行委員に入り協力して平和のイベントに取り組んできました。去年は地元にも軸足を置いて、若い人の視点から平和や戦争の記憶にアプローチをしました。というのも、ある学生と話したときに、確かに原爆は平和の取り組みの象徴だけれど、それは広島や長崎という遠いところの話と感じていると話があり、もっとリアルに身近なところでも戦争はあって、その戦争において自分たちは被害者であり加害者でもあるということをひも解いていくことで、平和を地元で学べることがあるのではという話になりました。そうした身近にあることを後世にしっかり伝えようと、去年は県内の戦跡を巡る学習 DVD の作成をしました。大学生に参加してもらい、シナリオから全て学生の若い視点で制作してもらいました。以前は映画上映会や平和の企画に参加した方による報告会といった、今までの価値観でしか平和の取り組みはできていなかったけれど、色々な人が集まることで、視点を変えた活動ができるようになってきています。一緒にやることで前進したという気がしています。

【鯉沼】 こういうと、協同組合ネットいばらきとして、様々な活動を行っているように見えますが、基本的には会員団体の取り組みを広げたり、こういうがあるので協力してくださいとお知らせしたり、という感じです。繰り返しになりますが、強制ではなく協力できる場所にしてもらおうというような感じです。

【井坂】 会員団体は年間のだいたいのスケジュールを把握してくれていると思います。ですので、食の支援や平和の取り組みを軸に、プラスアルファで協同組合について学習・交流なども行っています。

後者は、実際に働いている職員側が県内の他の協同組合についてどれだけ知っているかということ、何をやっているのかについてはほぼ知らないわけです。私も地域生協の出身ですが、協同組合ネットいばらきに関わって色々な協同組合のことが分かりました。次の世代の人たち同士が繋がらないと、この活動は弱まってしまうので、そこを作るためにも協同組合について、学んだり、交流したり体験する機会をもって、お互いの協同組合を理解していくことをやっていかないといけないと考えています。

私も協同組合ネットいばらきに関わるようになって思うのですが、各団体のトップの皆さんは以前から当たり前のように交流されていて、一緒に釣りに行ったり、ゴルフに行ったりと、仕事一辺倒でなく、そうした関係性があるのでくだけた話も含めて、協力がしやすい関係になっているのが茨城の特徴かもしれません。

協同組合ネットいばらき設立 10 周年企画の後にも、参加者同士でパークゴルフを行っています。学習会だけではなく、交流しないと駄目だよねっていうことは根付いています。交流する企画があれば、別の協

同組合の方とも一緒になり、話をする時間ができて、名前も覚えます。

大きい使命を持ってというより、協同組合同士だから、何かつながったらいろんなことできるかもしれない、それはきっと地域の人にとって良いことだったり、プラスになることがあったりするかもしれないという構えです。大上段に構えると近寄りがたくなってしまいますので、誰でもウエルカム。一緒にやれるんだったら一緒にやりましょう、つながりましょうを大切にしています。

【加賀美】 ちなみに、ネットいばらきの運営はどのように行われているのでしょうか。

【鯉沼】 基本的に、幹事会で活動計画を協議して、総会で承認を得て動いています。幹事会は、幹事団体の方が集まり、年に3回開催しています。そこで活動の振り返りと次年度の計画を決めていくという流れです。また、委員による委員会があり、こちらは総会の前に、短く総会の内容を報告しています。

日常的な活動に際しては、事務局のある中央会と副幹事長、代表を担当する県生協連で相談して進めています。これも茨城の特徴ですが、茨城県生協連がJA会館の中にあるので、私が相談したいことがあったら、徒歩1分ぐらいで行けるといのはすごくありがたいですね（笑）

【井坂】 そういう意味では、うまく連携できている理由に地理的条件はありますね（笑）

10年続く寄付講座 『協同組合論』の到達

【加賀美】 他にも、協同組合ネット茨城の

面白い取り組みとして、茨城大学で協同組合論の寄付講座をもう10年以上開講しておられます。

【鯉沼】 協同組合論の寄付講座が始まったのも2012年です。国際協同組合年実行委員会のなかで、協同組合の社会的認知の向上を目指した取り組みの一環として、寄付講座を開設したのが始まりです。当時の茨城県生協連の佐藤洋一会長と茨城大学人文学部の学部長がつながっていたことがきっかけで始まったと聞いています。最初は、各協同組合の代表者等が、その地域の実態や協同組合の事業等を講義していました。協同組合の認知を広げるだけでなく、協同組合に興味を持っていただき、就職先の選択肢として考えてもらう、といったことも目的のひとつです。2012年からの受講者は、延べ1,200人以上になっています。

【井坂】 大学生が協同組合として認識しているのは、農協や漁協といったところがほとんどです。協同組合にも色々な団体があるということは知られていなくて、まずはそこを学生に知ってもらうことを目指しています。講義では、各協同組合の事業だけでなく、様々な社会貢献の取り組みについても時間を割いて紹介しています。というのも、学生が就職を考える際、やっぱり地域のために貢献したい、働きたいという志があります。行政だけが地域のために働いているのではなくて、事業をやりながら地域のために様々な活動をしている協同組合があることを認識してもらいたい。その上で将来の進路の選択肢として、協同組合があがってくることがあればと思います。

講義を行うと学生の理解は深まります。講義の感想で圧倒的に多いのは、「協同組合はこんなこともやっているんですか」とい

う驚きです。JA は野菜を作っているだけだと思っていたけれど、病院事業や金融・共済事業、食育活動も行っていることは知らなかったという学生は多くいます。実際を知ることで、就職先として協同組合を選ぶ学生も出てきます。

よく言われることですが、協同組合は組合員向け、内向きには宣伝やアピールをするけど、外に向けたアピールは弱いところがあります。であれば、未来を背負って立つ学生たちに協同組合をきちんと知ってもらうことは、協同組合に就職しなくても意味があります。授業で協同組合って聞いたなあと思い出して、何かあったときにじゃあ応援しようとか協力しようとか、組合員になろうとか、そういうきっかけに繋がれば、それは協同組合にとって大きいことだと思います。

ただ、担当の先生からは、あまりきれいごとばかり話さないでくれとくぎを刺されています。学生は夢だけを描いちゃうから、現実的な話もきちんとしてほしいと言われています。

【加賀美】 2023 年のシラバスを拝見すると、多くの団体が持ち回りで講義を行う形なんですね。

【井坂】 講義は、各組合の常務理事や部長のところもあります。基本は団体にお任せにしています。学生が一番に興味を示すのは、実際に現場で働いている若手職員の講義のときです。このときは他の講義と全然反応が違って、普段はなかなか質問が出ないことが多いですが、この時は積極的に皆さん一生懸命聞いています。それだけ真剣に自分の就職先のことを考えているのだと思います。

講義内容は、毎年担当の先生と打ち合わ

せをしてブラッシュアップしています。前年の授業を振り返って、もう少しここを補強しましょうかとか、こういった内容に変えましょうと擦り合わせをさせてもらってから、ネットいばらきの方で各組合の講師と擦り合わせしていく形をとっています。

【加賀美】 生協や農協、労金・信金など以外にも、森林組合も講義に登壇されているのは珍しいですね。

【井坂】 今、林業では色々な機械を開発、導入されていて、森林組合の仕事の中身が変わってきています。若者も就職してくるそうです。そういう話のインパクトはとても学生には強いみたいです。え、林業ってこんなに進んでいるの。

そういう意味では、協同組合ネットいばらきの他団体の職員にも他の協同組合の体験学習をしてもらえたらと思います。今回は森林組合で体験学習をして、次は漁協でというように持ち回りで。コロナ前は企画をしていたのですが、立ち切れてしまっていますので、体験型学習を改めて少しずつ広げて、若手職員に交流してもらえればと思います。知り合う機会を通して、何かあったときに、電話 1 本でやりとりできる関係を築けたらと思います。



寄付講座「協同組合論」(茨城大学)

二度目の国際協同組合年に向けて

【加賀美】 来年、二度目の国際協同組合年を迎えることになりましたが、この10年を振り返って色々到達もあると思います。それを踏まえて、どのようなこと目指し、どう取り組みたいとお考えでしょうか。

【鯉沼】 展望としては、協同組合の枠を越えた連携ということで、今までもやっていますが、今後さらに様々な団体に声を掛けて、連携の輪を広げていけたらというのがあります。

もう1つが、やはり若い世代への継承ということです。高齢化や働き手の減少、社会のあり方が変わっていくなかで、協同組合の持つ価値を、職員含めて、次の世代に継承して行って、協同組合ネットいばらきが協同組合間の連携組織としての役割を続けていくのも大切だと思っています。具体的な活動までは未定ですが、来年度に検討していく予定です。

【井坂】 県生協連では組合員活動交流会を組合員理事対象に企画するのですが、そこで協同組合原則を学ぶ場を作ります。その場に協同組合ネットいばらきの団体の職員にも来てもらい、一緒に学習しましょうという取り組みをしようと考えています。2025年は国際協同組合年ということを共有して、みんなが一緒に何かできたらという流れのスタートにしたいと考えています。協同組合原則学習は撮影して動画配信もしたいと考えています。多くの職員にも見て学習してもらい、みんなで2025年国際協同組合年を考えるようにしていきます。

それと個人的にですが、協同組合ネットいばらきに参加していることを、組合員が

感じられるものが作れないだろうとも考えています。たとえば、水戸市内にはバルシステム茨城栃木やいばらきコープがありますが、組合員活動をするために会議室や組合員が集う会場がなかなか借りられないという課題があります。だけどJAにはきれいな施設があります。こうした施設を協同組合ネットいばらき加盟団体は貸し借りできるということは一つの可能性としてあるかと思っています。きれいな施設で会議や組合員が集えたら組合員は嬉しいと思います。組合員さんは苦勞して場所を探していますから、お互いが持っている施設を有効活用して連携できるような関係ができれば、組合員にも協同組合ネットいばらきの姿が見えてくると考えています。こうした見える形を意識することは必要かなと、個人的には思っています。

【加賀美】 協同組合ネットいばらき設立のもともとの狙いだった協同組合の認知拡大という点ではいかがでしょうか。

【井坂】 それぞれの協同組合は、分野に精通した専門的知識とスキルを持っています。それぞれ得意とするものがあり、協同組合ネットいばらきでそれらを整理して、団体毎にこんな学習ができます、教材提供ができますということを、県や自治体の教育委員会などに働きかけていくことを考えています。現在は大学で協同組合論や大学生と消費生活の授業をしています。地域生協やJAは小学校で食育授業を、労金は金融教育を小・中・高でやっています。こういう情報を1冊にまとめて提供できれば、またそこで新しいつながりが作れるので形にして提案できたらと思っています。

【加賀美】 教育という切り口から協同組合

の認知を広げるというのは、大事な取り組みになりそうですね。本日はありがとうございました。2025 年に向けた取り組みにも大いに期待しています。

表① 協同組合ネットいばらき 会員一覧

茨城県学校生活協同組合	
よつ葉生活協同組合	
生活クラブ生活協同組合	
鯉淵学園農業栄養専門学校	
全国労働者共済生活協同組合連合会 茨城推進本部	
中央労働金庫茨城県本部	
茨城県水産加工業協同組合連合会	
常総生活協同組合	
茨城保険生活協同組合	
労働者協同組合ワークスコープセンター事業団	
公益財団法人茨城県サッカー協会	
茨城県ユニセフ協会	
水戸農業協同組合	
常陸農業協同組合	
日立市多賀農業協同組合	
茨城旭村農業協同組合	
ほこた農業協同組合	
なめがたしおさい農業協同組合	
稲敷農業協同組合	
茨城みなみ農業協同組合	
水郷つくば農業協同組合	
つくば市農業協同組合	
やさと農業協同組合	
新ひたち野農業協同組合	
北つくば農業協同組合	
常総ひかり農業協同組合	
茨城むつみ農業協同組合	
岩井農業協同組合	
茨城県農業協同組合中央会	幹事
茨城県信用農業協同組合連合会	幹事
茨城県厚生農業協同組合連合会	幹事
全国農業協同組合連合会茨城県本部	幹事
全国共済農業協同組合連合会茨城県本部	幹事
茨城沿海地区漁業協同組合連合会	幹事
茨城県森林組合連合会	幹事
茨城県酪農農業協同組合連合会	幹事
茨城県畜産農業協同組合連合会	幹事
茨城県生活協同組合連合会	幹事
いばらきコープ生活協同組合	幹事
生活協同組合パルシステム茨城 栃木	幹事
茨城県労働者福祉協議会	幹事
共栄火災海上保険株式会社	幹事
茨城県消費者団体連絡会	幹事
日本放送協会 水戸放送局	学識等・委員
茨城新聞社	学識等・委員
株式会社 茨城放送	学識等・委員